

発覚

民主党市議4人の海外視察報告書がインターネットからの盗用・ねつ造だった

田中慎介議員(中央区)、太田英二議員(城南区)、田中丈太郎議員(博多区)、調崇史議員(城南区)のヨーロッパ視察

ヒドい!それが盗用の実態だ(一部紹介)

民主市議の海外視察報告書20ページより

インターネット百科事典ウィキペディア「バルセロナ」より

この街の「売り」とも言われるランブラス通りは、夜遅くまで多くの人通りでごった返し、花屋、鳥屋、大道芸人、カフェテリア、レストランが並ぶ、市の中心から臨海地区まで走る大通りである。南の終端にはクリストファー・コロンブスの像があり、海を指して立っている。

ランブラス通り:この街の「売り」である。夜遅くまで多くの人通りでごった返し、花屋、鳥屋、大道芸人、カフェテリア、レストランが並ぶ、市の中心から臨海地区まで走る大通りである。(中略)南の終端にはクリストファー・コロンブスの像があり、(なぜか米大陸のある西方ではなくて東方の!)海を指して立っている。

丸写し

福岡市議会の民主・市民クラブの4議員が議長に提出した海外視察報告書で、書籍やインターネットから文章を盗用していたこと、実際に行っていない地域で視察したように「ねつ造」した部分もあることが発覚したとの報道がありました。民主市議は事実関係を認めていると報じられました。

税金(二人80万円)を使う市議の海外視察を廃止せよ

長に申し入れました。
著作権侵害の疑い

報告書を見ると、インターネットから出典を示さず丸写しし、あたかも自分が見聞きして書いたかのように作ってあり、悪質極まるものです。出典を示したとしてもレポートの多くが引用だとすれば、著作権侵害の疑いがあります。

これは議員としての資格が厳しく問われる重大問題。内容を明らかにすべきですが、民主党からも市議からも市民にまともな釈明もなく、報告書を訂正して幕引きを図ろうとしています。

政令市で次々廃止・自粛

私たちは海外を含め先進事例から学ぶための視察一般を否定するものではありません。しかし、市民生活が苦しいなかで、議員の報酬や政務調査費とは別枠で海外視察に一人80万円もの税金を使うことが許されるのでしょうか。

仙台市、京都市など10の政令市で廃止・自粛されています。この際、税金を使った議員の海外視察をきっぱり廃止すべきです。

「視察」とは名ばかり 実態は観光旅行

共産党は行っていません

共産党市議団は海外視察に行っていません。5年前に他党の海外視察の実態を「世界遺産めぐり、ライン川下り、ボルドーワイン祭りなど、税金使った観光旅行だ」と告発しました。さらに「視察報告書の8割をインターネットから丸写し」「報告書なし」なども発覚しました。

でたらめな海外視察は全国各地で問題となり、福岡県議会でも「ハワイでリムジン乗り回し」などの実態が明らかに。



自民、民主、社民など 2340万円使い海外へ

市民の批判を受けいったん自粛に追い込まれたものの、民主や自民などが海外視察を復活させました。その後4年間で4党派(自民、民主、社民など)の30人が海外視察(アメリカ、欧州、ニュージーランドなど)に行き、総額約2340万円の税金が使われました。

何の反省もなく同じ問題を繰り返す市議の責任は重大です。

視察どころか税金を使った観光旅行でしょ。こんな議員特権はやめて!



日本共産党



日本共産党福岡市議団が議長申し入れ、記者会見

民主市議の海外視察報告書盗用・ねつ造事件に関して 海外視察の廃止を改めて要求します

5月12日「読売新聞」は、民主・市民クラブの4議員(田中慎介、太田英二、田中丈太郎、調崇史各議員)が議長に提出した海外視察報告書で、書籍やインターネット上の百科事典ウィキペディアなどから文章を盗用していたこと、実際に行っていない地域で視察したように『ねつ造』した部分もあることが発覚したと報じました。

1、盗用とねつ造の実態

報道によると、報告書について、①バルセロナ旧市街地に関する記述の部分が書籍からほぼ丸写し、②カスク・アンティックとバルセロナの両地区について実際は視察していないのに視察したように書かれている、③リバプールの都市の概要などがウィキペディアから丸写し、④これらは無断で文章を盗用している、と指摘されています。これに対し当該議員は事実関係を認めています。

わが党が調べたところ、例えば報告書の20ページから1ページ半にわたって記載されている「4.1.バルセロナ市の概要」「4.2.バルセロナの都市開発」の文章は、ウィキペディアの中の「バルセロナ」のページの文章や、雑誌「フォーラム福岡」ホームページの記事と、一部言い回しが違うだけでほぼ同文となっています。全32ページの報告書の中で同様の「丸写し」が何カ所もあります。これらは参考や引用ではなく、出典を示すことなくあたかも自分が見聞きして書いたかのように作った文章であり、報告書としては悪質極まるものです。まさに「コピー＆ペースト丸写し」です。

民主・市民クラブの4議員はすでに修正した報告書を議長に提出したとのこと

すが、引用元を記載すれば済むなどという軽い話ではありません。報告書の多くの部分が引用だとすれば、著作権侵害の疑いがあります。

また、視察していない場所に行ったかのように書いたこと(ねつ造)は明らかにウソの記載であり、市民を欺こうとしたことは明白です。記載ミスなどという言い訳は通用しません。

2、議員の資格が問われる重大問題

～全容と責任を明確にせよ

こうした盗用とねつ造の報告書を提出したことは、市民と議会に対する背信行為に他なりません。市議会議員としての資格が厳しく問われる重大問題です。わが党は民主・市民クラブに対し厳しく抗議するものです。ところが、当該議員からは何ら釈明もなく、所属党派も何の動きも見えず、このままでは、なぜ盗用とねつ造の報告書を作成、提出したのか、そもそも海外視察の必要があったのか、何も明らかになりません。

民主・市民クラブと4議員は自ら、海外視察報告書「盗用・ねつ造」事件について、盗用とねつ造の全容と詳細な経緯などをすべて明らかにするとともに、その責任を明確にすべきです。

3、視察報告書の盗用は他にもある

同時に、議会として問題を起した議員と党派に対し厳しく対処すべきであり、わが党市議団は森議長に対し、本日、真相究明を申し入れました。

さらに、同様の盗用やねつ造が他の海外視察報告書にもあるのではないのか、疑惑の目が向けられるのも当然です。

2010年6月28日～7月3日にニューヨーク・ランド・オークランドに行った福岡市民クラブ(当時)の大森哲也、藤本顕憲両議員が提出した海外視察報告書について、数カ所がインターネット上で公開されているウィキペディア記事や研究者の論文からの盗用だということが判明しました。

これも、インターネットから丸写ししておきながら、あたかも自分が視察先で相手方から聞いた話として記載されており、ミスや引用注記漏れなどという言い訳は成り立ちません。しかも、報告書のうちある一日分のほとんどが引用と盗用で作られており、報告書の体をなしていないだけでなく、本当に視察したのか疑わしいと言わざるを得ません。この件についても調査と責任の明確化が求められます。

2008年度以降のすべての海外視察について、改めて調査が必要です。これについても、議長に対し調査と公表を申し入れました。

4、何の反省もなく問題を繰り返す

海外視察賛成派

わが党市議団はこの間、海外視察の廃止を主張してきました。5年前には一人100万円という高額さ、観光旅行まがいの視察先、インターネット盗用(公明党)など視察報告書のずさんさ、透明性の低さなどの実態を告発しました。これは大きく報道され、市民から「議員特権だ」「視察どころか税金を使った観光旅行だ」「中止すべきだ」と怒りを買い、いったん自粛に追い込まれました。民主・市民クラブや自民党など海外視察賛成会派は、市民の批判をかわすため「上限額の80万円への引き下げ」報

告書の厳格化と公開などを条件にして、わが党の反対を押し切って海外視察の復活を強行しました。

この4年間で4党派30人が海外視察に行き、総額2339万6866円の税金が使われました。しかし、今回明らかになったように、海外視察賛成会派は何の反省もなく同じ問題を繰り返しました。これでは福岡市議会に対する市民の不信は高まるばかりです。海外視察の廃止を主張してきたわが党として断じて看過できません。

5、海外視察をきっぱり廃止せよ

税金を使った議員の海外視察のたためぶりは全国各地で問題となっています。福岡県議会でも一昨年、「世界遺産めぐり」「ハワイでリムジン乗り回し」などの実態が明らかとなりました。

そもそも低迷する経済状況のもと市民は生活苦にあえぎ、国による増税や社会保障切り捨ての不安に怯えるなか、議員が多額の税金を使って海外に出かけることは市民の理解を得られるものではありません。

こうした海外視察の必要性そのものが厳しく問われ、廃止・凍結している政令市議会もあります。本市議会においても、海外視察賛成会派の不当さ、不誠実さ、反省のなさが浮き彫りになった深刻な事態を受け、この際、税金を使った議員の海外視察そのものをきっぱり廃止すべきです。

以上の立場から、わが党市議団は、議長に対し、海外視察の廃止について議会として検討するよう改めて申し入れました。各党派が今回の事態と市民の声を真摯に受け止め、真剣な検討がされるよう期待するものです。